



はじめてのおつかい

筒井 頼子 さく 林 明子 え

福音館書店 1976年 840円

32ページ 20×27cm

はじめてのおつかいをした時の気持ちを覚えていますか？おつかいという大役を果たそうとするみいちゃんのドキドキしている気持ちがお金を握りしめて出かける姿や、自転車をさける姿や、転んでもけがより落としたお金を心配する姿から伝わってきます。裏表紙にはけがの手当てをしてもらって、買ってきた牛乳を赤ちゃんと飲むみいちゃんがあります。忘れずに見せてあげてください。そして、表紙に戻ると、おつかいを無事に終えて、出迎えのお母さんに笑顔でこたえるみいちゃんがあります。

横長の絵本のすみすみまで描かれた絵は日常の生活感があふれています。



はなのすきなうし

マンロー・リーフ ぶん ロバート・ローソン え
光吉 夏弥 やく

岩波書店 1954年 672円

1冊 21×17cm

“はなのすきなうし” ふえるじなんどのはずなのに表紙を開くと、勇ましい闘牛の絵です。ここに物語の伏線が張られています。いったいどんなお話なのだろう？と期待は膨らみます。表紙を開くとすぐに物語が始まるという絵本の好例です。

静かで平和だった牧場の生活に、ある日勇ましい闘牛をもとめて街の男たちがやってきます。何の間違いか誰よりもおとなしいふえるじなんどが選ばれてしまいます。さあどうなることでしょうか？

一人静かに花のおいをかぐのが何よりすきなうし、ふえるじなんどの生活は平和の象徴です。そして“人と違っていてもいいんだよ”そんなメッセージを届けてくれる絵本です。

